（№１３０）　（２００８年３月１０日）

冬期開園は４月７日まで
雪の中の動物たちと会えるのもあとわずか…

ASAHIYAMA Zoo

発　行　所
旭川市旭山動物園
動物図書館
☎　36-1104

おしえて！どうぶつえんのお仕事

雪解けの時期が近づいてきました。冬の間、眠っていた動物たちも目覚め始めます。さて、旭山ではまだまだ睡眠中の動物がいるのを知っていますか？「まだ見ていない！」そんな人は今のうちに第２こども牧場（１３：１５～１４：１５）へ！！

寒い冬の北海道、植物は雪におおわれ、動物たちが生きていくのに、厳しい季節です。この間、少ないエサを求めかけ回る動物もいれば、冬眠して春を待っている動物たちもいます。

今回、第2こども牧場では、ある動物の「冬眠」している様子が見られます。そもそも「冬眠」とは、大きく2つに分けることができます。エゾシマリスのように、外の気温と同じくらいまで、体温を下げて深い眠りにはいる冬眠と、ヒグマのように、まどろんでいるような浅い眠りで、ちょっとの刺激で目覚める「冬ごもり」があります。

のぞいてみよう！ハムスターの冬眠

冬眠をするために、カラダの中で何がおこっているの？

どうして体温が低くても心臓が動いているの？

ここでは、ハムスターが冬眠している姿が観察できます。ハムスターは、外気温近くまで体温を下げ冬眠しますが、エゾシマリスのように、数週間ものの長い周期ではなく、長くても5～6日で目覚め、半日～1日するとまた冬眠します。

ハムスター展示の横では、冬眠中の体温や心臓が動いている様子を、実際にモニターで確認することができます。冬眠中の体温は何度まで下がっているでしょうか？冬眠中の動物たちは、体の機能やうごきをなるべくおさえ、少しずつエネルギーを使って厳しい冬を乗り越えます。

心臓のドキドキや、体温や脈はくは　どんなだろう？

この展示は、旭川医科大学の先生の協力で行っています。自然に近い状態で冬眠させ、ハムスターが持つ能力を引き出します。

動物たちが冬眠に入る時の体の仕組みや、目覚める時の機能について、まだまだ知られていないことも多く、飼育展示係も勉強中です。この展示を通して、「冬眠について学ぶことで、野生にくらす動物たちに興味をもってもらいたい」との思いがあります。また、「冬眠を通じてカラダの仕組みに興味をもつ人が増えてほしい」し、「冬眠の解明は野性動物や人間の未来を広げる可能性をもっている」そうです。

冬の動物たちに近づける冬眠の展示は冬の開園が終わる4月7日までの予定です。ぜひ学びにきてください。

旭山今昔

40周年という記念の年もあとわずかとなりました。長い歴史を振り返ると、当時の苦労や想いが浮かび上がります。そして、その歴史は今も引き継がれ、未来へとつながっていきます。今回は、ある数字をもとに、40年間を振り返ります。

7　当時の飼育係の数

開園当初の展示動物数は５０５点で、現在と大きく変わらないのですが、職員はこの人数で宿直も交代で行っていたそうです。宿直の晩、建物がふるえるほど大きなカバのなき声で、眠られないほどだったとか…。

現在は１８人。当時と比べたらずいぶん多くなりました。

思い描いたスケッチの数　14

当時、現実になるとは思ってもいないことでした。将来の動物園について夢や思いを語イデアが今の施設にいかされています。そして、これからも当時の夢が実現されていくことでしょう…

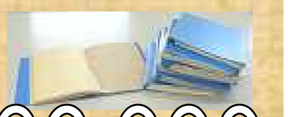
19　旭山動物園が受賞した繁殖賞の数

繁殖賞～日本の飼育下で初めて繁殖した動物に贈られる賞

飼育係の目的である動物たちの「繁殖」。たくさんの繁殖に立ち会いながら、旭山動物園で初めて繁殖賞を受賞した動物は、1974 年のホッキョクグマです。その後、アムールヒョウ・オオタカなどでも受賞しています。

1975年からつづいている勉強会　273

当時の新人飼育係（現在の小菅園長）の発案から始まった「勉強会」。飼育展示係が集まって、それぞれの研究成果を発表し、知識をみなで共有します。



今年３月現在で273 回になります。

約27,000,000　開園以来の入園者数

1967 年７月１日以来、多くの方々にご来園いただいています。これからも皆さんと共に、大きな夢へと向かって一歩一歩、歩んでいきたいです。

身近な森の「健康」チェック

野生のエゾタヌキも、冬眠するのかな？

ちょっと考えてみてましょう。みんなが風邪をひいたとき、体温が３９℃だったら、熱があると思うでしょう。いつもの体温（平熱）を知っているからこそ、健康な時と比べてどれくらい熱が高いかわかるのです。では、身近な森が健康かどうか調べるにはどうしたらいいのでしょうか？

旭山動物園では、旭川医大と協同で、森にすんでいる生きものの１つ、エゾタヌキの冬のくらしを調べることにしました。野生のエゾタヌキに発信器をつけて、野外に放し、追跡調査をおこないます。エゾタヌキはどんなところで寝て、何を食べ、どんなくらしをしているのでしょうか。

最近は、森林伐採や外来種・地球温暖化の問題などで、「森は健康である」とはいえません。けれど、今の森の状態を知っておくことはとても大切なことです。将来、エゾタヌキのくらしに変化が起きたとしたら、それは森が病気が重くなっている兆しなのかもしれません。その異変に気づくための手がかりを今は調べているところです。

この冬の調査でわかったことは、随時ホームページで紹介します。ぜひ見てください。

タヌキについて解説しています　～旭山動物園ホームページ→動物病院→平成 20 年のお話→タヌキのくらし　へ

タヌキについて解説しています ～旭山動物園ホームページ→動物病院→平成 20 年のお話→タヌキのくらし へ